

第3回 関西海事教育アライアンス・シンポジウム開催報告

2017年12月14日(木)、大阪大学中之島センターにおいて「第3回関西海事教育アライアンス・シンポジウム」を開催した。本シンポジウムは、3大学が平成19年10月に包括連携協定を取り交わし、平成20年4月より大学院の連携授業を開講して以来10年間の経過と自己評価の報告、今後の発展を目指した意見交換のために企画した。講演会の出席者数は83名、その後開催された懇親会への参加者数は58名と盛況な会となった。

アライアンスを組む3大学の各研究科長からの挨拶の後、まず第一部アライアンスのあゆみと題して、運営委員より、アライアンスの設立趣旨とこれまでの成果の概要、連携講義の内容と狙いおよびアンケート結果に基づく分析、第2回シンポジウム後に実施した国際研究連携の内容について報告するとともに、連携講義と国際研究連携の参加者から感想、希望、今後の課題についての意見を頂いた。分析結果では、3大学のみならず海事クラスターによる相補性により、広い知識の獲得と多面的な議論・思考の成就を目的とした教育、研究レベル向上を目指した海外の大学や研究機関との研究ネットワーク強化はある程度実施できたとし、海事分野の将来を担う人財が集結する一方で現場が遠ざかる傾向にある関西における本授業の重要性を再認識し、教育においては現場見学・乗船などの体験型教育を導入、研究においては国際的プレゼンス向上等更なる強化を図りたいとした。

後半の第二部はアライアンスへの期待と題して、国土交通省・造船業界・海運業界・海洋開発業界から、各業界の将来と求める人材、アライアンスへの期待・提言について講演いただき、その後のアライアンスの将来と課題について総合討論を行った。海運業界は現在も成長し、海事産業は地域に根ざし地方の経済成長と雇用を支えるとともに、世界一の海事クラスターを日本に構築しており、近年政治的プレゼンスも向上している。これからの業界が求める人材は、日本の立国に資する海事産業の存在意義を胸に、高い志を持ち、船舶、海洋の社会のニーズを的確に予測し、それに応える技術を備え、国際の場で丁々発止のコミュニケーションがとれる能力が必要であり、アライアンスには、このような人材を教育するために、実業に則して事業環境の変化を感じ取り、海事産業発展の道を指し示す、闊達な教育・研究の場の構築を期待された。

海事分野を志向する学生を増やし優秀な人材を育成するためには、3大学のみならず海事クラスターの全体の連携努力がさらに必要であり、今後とも各界の支援の下、内容の充実を図りたい。引き続きのご支援をお願いしたいとして会をくくった。

(記 片山運営委員)



プログラム

司会：片山 徹 運営委員（大阪府立大学大学院工学研究科教授）

「大学からの挨拶」

内田 誠 氏 （神戸大学大学院海事科学研究科長・教授）

辰巳砂 昌弘 氏（大阪府立大学大学院工学研究科長・教授）

田中 敏宏 氏 （大阪大学大学院工学研究科長・教授）

第1部：アライアンスのあゆみ

「アライアンス設立の趣旨とあゆみ」

藤久保 昌彦 運営委員（大阪大学大学院工学研究科教授）

「海事教育アライアンスの現状分析」

勝井 辰博 運営委員 （神戸大学大学院海事科学研究科准教授）

「アライアンスが育んだ国際研究連携」

柏木 正 運営委員 （大阪大学大学院工学研究科教授）

「アライアンスに参加して」

平井逸郎 氏 （ジャパン マリンユナイテッド（株））

大塚耕司 氏 （大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授）

笹 健児 氏 （神戸大学大学院海事科学研究科准教授）

第2部：アライアンスへの期待

「各業界の将来と求める人材そしてアライアンスに対する期待」

大坪 新一郎 氏（国土交通省・海事局次長）

太田垣 由夫 氏（ジャパン マリンユナイテッド（株）・代表取締役副社長）

門野 英二 氏 （川崎汽船（株）・専務執行役員）

市川 祐一郎 氏（日本海洋掘削（株）・代表取締役社長）

「アライアンスに対する希望・期待そして課題」

箕浦 宗彦 運営委員 （大阪大学大学院工学研究科 准教授）

懇親会

司会：山崎哲生 運営委員（大阪府立大学大学院工学研究科 教授）